



ふるさと蛭川を愛し、誇りに思う人材の育成

校長 伊地知 みゆき

6月6日（月）今年度からスタートした「蛭川勤彊未来塾」の第1回目の会議が開かれました。昨年度末の学校報でもお伝えしましたが、この会は地域とともにある学校づくりを目指す「学校運営協議会」と学校を核とした地域づくりを目指す「地域学校協働活動本部」の機能を一つにして進めていく組織の会です。蛭川振興会の役員様、地域の有識者様がメンバーとなり、学期ごとに小、中、園の子どもたちの様子を参観して学校、園の経営についてご意見を伺ったり、地域の活動について共通理解を図ったりします。

第1回目は本校の子どもたちの授業の様子を見ていただきました。その後、中津川市教育委員会より運営委員委嘱状の配付や、園・学校の経営方針の共有、年間活動計画の確認、ボランティア募集についてなど、盛りだくさんの内容を時間いっぱい審議されました。

「家の前を通る子どもたちは元気に挨拶してくれる」「学童での様子を見てみると大きくなった高学年が低学年の面倒をよく見ていて成長を感じる」等の言葉もいただき、励まされました。

未就学児を中心にした子どもたちの遊び場の構想や学童と学校との横断歩道の設置要望等も情報共有され、蛭川地区が子どもたちにとって、より安全で安心な環境となるようご尽力いただいていることも実感しました。



渡邊さんからお借りしている学習田での米作りが3年ぶりに復活しました。苗植え当日澤木さんを始めいつもお世話になっている地域の方々やJAの方が20名近く手伝ってくださいました。これから水の管理や雑草の手入れ等も、ご心配やお世話をおかけします。

コロナ感染症予防の今現在の学校の対応や欠席児童の状況なども情報提供させていただきました。

岐阜県は「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を目指しています。本校は代々地域の方にたくさんお手伝いいただきながらふるさと学習を進めています。そして自分たちの生まれ育った蛭川の歴史や自然、農産物等について知り、蛭川のよさを学び、自分の生き方に繋げています。今年度正式に始まった蛭川勤彊未来塾がさらに子どもたちの学びを支え、高めてくださると確信しています。

◆命を守る◆

6月には「不審者対応の訓練」や「救命講習（6年生）」などの訓練が行われました。様々な場面における身の安全や命を守る対応を、訓練を通して学習しています。コロナから身を守るマスクや消毒も大切な「命を守る」学習の1つです。子どもたちの中ではすでに当たり前のことになってきましたが、今度は熱中症の危険にも気をつけなければならない気候になってきました。コロナと熱中症の相反する対応には、自分の命は自分で守るという判断が求められます。学校では「体育の時」や「登下校時」は「マスクを外す」よう指導しています。

子どもたちには訓練や日常の指導を通して、これからの季節の大雨や熱中症対策の日傘使用や水分補給など、正しく判断して最適な方法を実行する力を身につけてほしいと願っています。

◆水泳の学習が始まります◆

一度は天候不順で延期になったプール掃除を16日に行いました。肌寒い天気ではありましたが4～6年の児童できれいに掃除をしてくれました。プール周辺から大プールまで、各学年の持ち場を丁寧に掃除してくれました。水泳の学習が楽しみです。



◆地区懇談会◆

7月上旬に各地区で行います。事前にお配りする「地区懇談会資料」をもってご参加ください。